



甲南だより

平成30年4月16日発行 Vol.14

グランドビュー甲南をより知って頂くために、この度「甲南だより」を新しくしました。
どうぞよろしくお願い致します。

春

によせて

今年も桜が美しく咲き、待ちに待った春がやってきました。

春の風は優しく柔らかく私たちの心までも穏やかにしてくれます。

季節は冬から春へ：

寒さから身を締め守り続けたからだは、春の訪れとともに凝り固まった心とからだをやさしく解き放ってくれるかのようです。

「山笑う」 春ならではの空気や景色、生き物や草木などは、私たちが自然に笑顔に導いてくれる気がします。

道ばたに咲いている名もなき美しい花に难道はほっこり、笑みがこぼれ、心も緩みます。

今年の春は、これまで頑張ってきた自分のからだをちよつと緩ませてみるのはいかがでしょう。

そして、“新しい春”の時代の足音に心を研ぎ澄まし、自分の心が真に喜ぶことをしてみませんか。

「和顔愛語」 和やかな顔とやさしい言葉。

自然と心からにじみ出る穏やかな笑顔と言葉は、人々の心を晴れやかにします。

春の陽だまりのようなぬくもりを人から人へと紡ぎ、一日一日を大切に過ごしたいものです。

春のお花見

4月3日 今年は桜の開花がことのほか早く、お花見行事まで散らずに…と、やきもきしました。

当日はお天気に恵まれお花見日和、桜満開の王子動物園へ。皆様はいつ頃動物園に行かれたか。久しぶりの動物園は懐かしくワクワクしました。パンダの愛らしいしぐさに笑みが

こぼれ、また久々ゆえにゾウもこんなに大きかったのかと改めて思いました。

近くてもなかなか足を運ぶ機会のない動物園、たまにはいいものですね！



歌の会 & 介護相談会

3月28日 歌の会&介護相談会を開催いたしました。

歌の会ではピアノの伴奏に合わせ春の美しい歌声が響き、また生活相談員による介護相談会では、介護保険サービスの利用や神戸福生会の事業内容について、熱心にお聴きになるお姿が…。

皆様からは興味深い質問も多く頂きました。



朗読すみれ会

3月18日 「朗読すみれ会」による朗読会が行われました。

趣の異なる6話の素敵な朗読のあとは、身体を動かしながら皆様一緒に歌って、楽しい時間を過ごしました。



抹茶と季節の和菓子

2月27日 雛壇の前に畳をしつらえてみました。

お抹茶を点てていつもと違う雰囲気、美味しい和菓子を頂きました。お抹茶のお点前体験では、背筋が伸び、手つきも鮮やかで…。

ちょっと一服、和やかに会話が弾みました。



介護から

日常生活の中で、怖いものの一つに「転倒」があります。

転倒の原因は何でしょう？

- ① 筋力低下 ② 円背えんはい ③ バランス低下
- ④ 環境不備など。

①は説明不要ですね。②は、背中が丸まると、呼吸が浅くなったり、顔や腕を上げるときに腰や膝に負担をかけてしまうため。

③は、歩行時の重心移動がうまくいかなくなるため。④は、たとえ自宅をバリアフリーにしても、かえって①が進むことになれば要注意。

ある高齢者施設では、わざと段差を残した「バリア有り」で、転倒が減ったという結果が出ています。

では、転倒を防止するには？

①の防止のための体操やエクササイズの中から自分に合ったものを習慣化しましょう。継続ではなく習慣。簡単なものを、日常生活動作にくっつけてしまうのです。食事、着替え、トイレ、歯磨きなどのついでに。

そして、家の中の小さな「バリア有り」で、プチ負荷はいかがでしょうか。

くれぐれも、無理はしないでください。





（ご入居者様の投稿欄）

そよ風

グランドビュー展望の

万葉集名歌へのいざない

ご入居者 正田様

難波潟潮干に立ちて見わたせば
淡路の島に鶴渡る見ゆ

難波潟（大阪湾）の潮の引いた潟に立って見渡すと、淡路島に向かって鶴が飛んで行くのが見えるよ、と歌っています。いつもグランドビューから眺めている大阪湾の風景も、ちよつと万葉集という千三百年のタイムカプセルを開いて見ると、新春の光に輝く海上を鶴の一群がコウコウと鳴き交わしつつ飛んで行く光景が目に見えます。

掲載の一首は万葉集巻七・一一六〇番
詠み人しらずの歌。



海に見える街

ご入居者 杉山様

私は石川県金澤市で生まれ育ちました。近くには遠浅の日本海があったので、春から夏にかけてそこは子供達の絶好の遊び場で、正に唱歌「我は海の子」の世界でした。高等学校は南国鹿児島市で三年を過ごし、校舎や下宿からは紺青の錦江湾より直接聳えて噴煙を吐く雄大な桜島を眺めながら学生生活を送りました。そのような訳で何時とはなしに海との接触は、私の日常生活とは欠かせない庭のような背景になっていました。

後年勤めの関係で三重県津市に住まうことになった時は早速高台で伊勢湾を見渡せる家を求めました。病棟からは南方の伊勢・志摩より正面に知多半島、北には名古屋方面を遠望できました。疲れた折にふと海、白い航跡そして紺碧の空に目をやった時などどれだけ癒されたかわかりません。

ご縁がありこの甲南の地に住んで既に四年、眼下に広く大阪湾・神戸・大阪地区を見渡し、天空の宇宙ショーをも楽しめる絶好な環境のホームに住まわせて頂く機会を得て、今は本当に幸せに感じております。

ひな掛軸と私

ご入居者 占部様

明治の初期に私の母方の祖母が女学校の時に作った卒業作品です。掛軸は作品に合わせて表具師さんが作ったものと母より聞いて居ります。母が持っていた物を私が譲り受けました。

子供の頃は毎年おひな様が近づくと母が出して来て壁に掛け、横にはひな壇がありおひな様・お道具・いちま人形を並べ、其の室はおひな様一色になりました。お友達を呼び、母の手作り料理でもてなしてもらった事を思い出します。結婚した時に私がいらい受けました。毎年お友達とひな祭りを楽しみました。ここ「グランドビュー甲南」に来て、もらって戴きました。そして皆様に見て戴いて祖母の喜んでいる顔が浮かんで来る様です。大事にして下さって感謝して居ります。



いちま人形のお着物も七五三の時のお着物布を使って仕立てられたとのこと。いちま人形は占部様のお嬢様に受け継がれているそうです。

高齢八十三歳の十訓（語調合せ）



ご入居者 小林様

一つ（ひ）人々に支えられ、生きている幸せを心に刻むように。
二つ（ふ）振り返り、若かりし頃の思い出を巡り、少し活気を取り戻すように。

三つ（み）身なりを整え、他人に不快感を与えぬように。

四つ（よ）酔いはほんのりと、友人と美酒を嗜むように。

五つ（い）いつもバランスのとれた栄養食と、適度の運動で、健康を維持するように。

六つ（む）無理をせず心身を休めるよう、早寝早起きで快く眠るように。

七つ（な）仲間が段々と逝く年頃を迎え、孤独に堪える術を身につけるように。

八つ（や）病や怪我に苦しまないよう、常々予防に留意するように。

九つ（こ）高齢少子化による人口減少の国難の下で、政治・経済等の動向に関心を持つように。

十（と）投資は手堅く、出来るだけリスクを避けるように。

さて、人生五十年とは昔語りであり、もう人生百年時代が近付いています。私もとにかく八十三歳の高齢まで生き延びて来ましたが、もう少しの余生を健康で平穩に過ごしたいと思いついたのが、ここに記したちやちな十訓です。

最後にもう一訓。

永年苦楽を共にした妻子との恩愛の絆を、いつまでも断たないように。

果して、これを活かすことが出来るでしょうか？





おかげさまで、グランドビュー甲南の皆様とご縁をいただいております。四度目の春を無事に迎えることが出来ました。

レストランから一望できる景色は格別で、私達も大好きな空間です。そんな中で美味しい食事を召し上がっていただこうと、料理長始め、厨房一同業務に励んでいます。

今年は郷土料理や、旬の食材をふんだんに取り入れたメニュー等、楽しみにしていただける献立や取り組みを検討しています。行くのがわくわくするような食空間レストランづくりを目指してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



スタッフ 通信

フロント
赤松 野吏子



赤松さんって
どんな人？

フロントは、グランドビュー甲南のご入居者様のお声を承る窓口です。皆様からのご要望やお声を、適切に各部署の担当者に引き継ぎます。こんなこと聞いていいのかなとお考えにならず、お気軽にフロントへご相談下さい。

また、お客様のお出迎えや入退館の確認、荷物の一時保管、食事やイベント関連の申込み、病院送迎や買い物代行の受付け、共有部の予約等も承ります。

皆様と楽しく色々なお話をさせて頂くことも、フロントスタッフの楽しみの一つでもあります。グランドビュー甲南の暮らしが豊かになるよう、フロントスタッフ一同、ご支援させて頂きたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

神戸で生まれ、大学卒業まで神戸で過ごしました。

大学卒業後、(株)全日本空輸に入社。客室乗務員として国内・国際線に乗務していました。

フロントの数井さんは当時お世話になった先輩で、ここで再会し御縁に感謝しています。

お気に入りのステイ地は国内は宮崎、沖縄、海外はミラノ、ロンドンです。

また時間ができれば、フライトで訪れた都市をゆっくり旅行したいです。

— 福生物語 — 第一話 福生会創立者

サービス管理課長 乾 加奈

あるご入居者様から神戸福生会の創立者や歴史の連載のご要望を頂きました。今回はロビーの胸像についてご紹介いたします。

名は、中辻嘉台。高齢者福祉事業にすべてを捧げたのは、戦争経験からです。河北省南昌に赴任し、孔子廟や関帝廟などを使って難民を収容する福祉施設のようなものをつくりました。孤老や孤児、母子家庭が飢え死にしないよう守る役目です。

海南島で終戦を迎え戦友が処刑された中、自分だけ南昌の方々の計らいで助命されました。それは単純に喜べることではないことはお察しの通りです。職務に忠実に厳しく取り締まった人ほど死刑になり生きて日本に帰ってきた自分は卑怯だったのか、葛藤を抱え耳に残る「親が困っていたら助けてやってほしい。」という戦友の遺言。順番に手紙を書いていきました。

昭和二十六年六月、社会福祉事業法制定と新聞の朝刊で目にしたその夜、新聞を握りしめ列車に飛び乗りました。「全財産を投げ出すから養老事業をさせてほしい。」と厚生省へ直談判。昭和二十七年一月十日、社会福祉法人第一号として法人設立。大阪府堺市の自宅を開放し、定員四十名の生活保護養老施設福生園から始まりました。

福生会の名前の由来はまた別の機会にて。

